

この夏、
マンダラののパワーを浴びる。

国宝
重要文化財
98.9%

空海

と 密教美術展

Kukai's World: The Arts of Esoteric Buddhism

2011年 7月20日(水) → 9月25日(日)

東京国立博物館 平成館 [上野公園] **TNM**

Tokyo National Museum Heiseikan (Ueno Park) 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

【開館時間】午前9時30分～午後5時 *金曜日は午後8時、土・日・祝日は午後6時まで開館 *入館は閉館の30分前まで *開館時間については、変更の可能性もあります。ご来館の際には、公式ホームページ等でご確認ください【休館日】月曜日(ただし8月15日、9月19日は開館)

【主催】東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション【特別協力】総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺(東寺)、総本山善通寺、遺迹本山神護寺【協力】真言宗各派総大本山会【協賛】あいおいニッセイ同和損保、きんてん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査

左:上から
国宝「大威徳明王坐像(だいゐとくめいおうざぎやうぞう)」(五大明王のうち)
国宝「金剛法菩薩坐像(こんごうほふさざぎやうぞう)」(五菩薩のうち)
国宝「降三世明王立像(こうさんぜみんぎやうたつりぎやう)」(五大明王のうち)
国宝「帝釈天騎像(たいしやくてんきぎやう)」
右:上から
国宝「金剛業菩薩坐像(こんごうごうぎやうざぎやう)」(五菩薩のうち)
国宝「増長天立像(ぞうちやうたつりぎやうぞう)」(四天王のうち)
国宝「梵天坐像(ぼんてんざぎやう)」
国宝「持国天立像(じこくてんたつりぎやうぞう)」(四天王のうち)

*すべて部分、平安時代・承和6年(839)、京都・東寺蔵

空海は日本にはじめて真言密教を伝え、
以後の仏教とその美術に大きな影響を残しました。
この展覧会では、4章構成で空海とゆかりの
密教美術をご覧ください。

空海 と 密教美術展

Kukai's World:
The Arts of Esoteric Buddhism

第1章 空海

日本密教の祖

空海の仏教求道の宣言ともいえる**聾聾指帰**、筆の献上文といった自筆の書や肖像などによって、空海の人となりをご紹介します。

第2章 入唐求法

密教受法と唐文化の吸収

中国に留学した空海は短期間で密教のすべてを修めます。
この章では、空海が中国から持ち帰った絵画、仏像、工芸などを展示します。

第3章 密教胎動

神護寺・高野山・東寺

中国から帰った空海は、寺院・仏像の造営や著述など多彩な活動を展開します。
ここでは空海ゆかりの絵画、書、仏像、工芸などを展示します。

第4章 法灯

受け継がれる空海の息吹

空海思想は弟子たちに引き継がれます。
まだ空海の息吹が残る9世紀の作品を中心に密教美術の名品をご紹介します。

重要文化財「弘法大師像」(部分)
鎌倉時代・13世紀 東京・西新井大師總持寺蔵
展示期間:8月2日~8月28日

本展のみどころ

- ◎密教美術1200年の原点-その最高峰が大集結します。
- ◎展示作品約100件のうち98.9%が国宝・重要文化財で構成されます。
- ◎全長約12mの「聾聾指帰」をはじめ、現存する
空海直筆の書5件をすべて巻頭から巻末まで展示します。
- ◎東寺講堂の仏像群による「**仏像曼荼羅**」を体感できます。
- ◎会場全体が、密教宇宙を表す“**大曼荼羅**”となります。



10日間限定公開! 金念珠、飛行三鈷杵

空海には逸話伝承と共に伝えられる事物が多くありますが、金念珠と飛行三鈷杵は高野山内でも特別に秘蔵されてきた重要なものです。金念珠は、空海の住坊であった竜光院に秘蔵されてきたもので、空海が在唐中に順宗皇帝から贈られたと伝えられる純金製の念珠です。飛行三鈷杵は、空海が唐から帰国する際に、密教を広めるのに相応しい地を求めて明州の港から三鈷杵を空中に投げたところ、それが遠く飛行して、高野山中の松の枝に懸ったという伝承を持ちます。今回、特別にこれらの秘宝が10日間のみ公開されます。是非この機会をお見逃しなく。



「金念珠」伝空海所持 唐時代・9世紀
和歌山・竜光院蔵
展示期間: 7月20日~7月30日



重要文化財「三鈷杵(飛行三鈷杵)」
平安時代・9世紀 和歌山・金剛峯寺蔵
展示期間: 7月31日~8月11日

観覧料	一般	大学生	高校生
当日料金	1,500円	1,200円	900円
前売料金	1,300円	1,000円	700円
団体料金	1,200円	900円	600円

○団体は20名以上○中学生以下無料○障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください)※前売券は、4月1日(金)から7月19日(火)まで販売【販売所】東京国立博物館正門観覧券売場(開館日のみ)のほか、チケットぴあ(Pコード=前売/当日:764-577 早割ペアチケット:764-578)、 Lawsonチケット(Lコード=33555)、イープラス、ファミリーマート、JTB、CNプレイガイドなど主要プレイガイド、および展覧会公式ホームページ上のオンラインチケット

東京国立博物館 平成館 [上野公園]

Tokyo National Museum Heiseikan (Ueno Park)
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ホームページ <http://www.tnm.jp/>



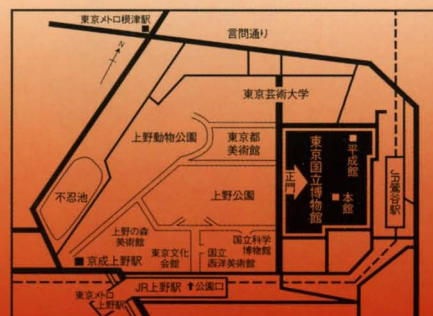
展覧会
モバイルサイト



【お問合せ】
ハローダイヤル 03-5777-8600
展覧会公式ホームページ <http://kukai2011.jp/>

★お得な早割ペア券2枚セットで2,200円
4月1日(金)~5月31日(火)まで期間限定発売!

*会期中、作品の一部に展示替えがあります。



JR上野公園口、鶯谷駅南口より徒歩10分
東京メトロ上野駅・根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分。

密教宇宙、東京・上野に出現。

密教はその名の通り、秘密の教えです。本尊大日如来は、宇宙の真理を伝えたかたちにしたものといわれますが、その意味するところは難解です。

密教を日本にはじめて伝えたのは、弘法大師空海でした。空海は、延暦23年(804)に密教を求めて唐に渡り、2年という短期間のうちにその奥儀をきわめました。奥深い密教の教えは、絵画などを用いなければ理解できないと師の恵果や空海自身がいうように、密教では美術作品が重視されます。

2011年夏、空海が中国から請来したゆかりの作品と平安前期の密教美術の代表的な作品が上野に集まります。この展覧会で、あなたも密教宇宙の一端に触れることができるはずです。



〔右〕国宝「両界曼荼羅図(高雄曼荼羅)」
平安時代・9世紀 京都・神護寺蔵
展示期間: 胎蔵界 7月20日～7月31日
金剛界 8月2日～8月15日
※写真は金剛界

〔左上〕国宝「両界曼荼羅図(西院曼荼羅)」
平安時代・9世紀 京都・東寺蔵
展示期間: 胎蔵界 7月20日～8月21日
金剛界 8月23日～9月25日
※写真は胎蔵界(部分)

〔左下〕重要文化財「両界曼荼羅図(血曼荼羅)」
平安時代・12世紀 和歌山・金剛峯寺蔵
展示期間: 胎蔵界 8月16日～9月4日
金剛界 9月6日～9月25日
※写真は胎蔵界



重要文化財
「如意輪観音菩薩坐像」
平安時代・9世紀
京都・醍醐寺蔵



〔上〕国宝「阿弥陀如来および両脇侍像」平安時代・仁和4年(888) 京都・仁和寺蔵
〔左〕国宝「薬師如来および両脇侍像」平安時代・延喜13年(913) 京都・醍醐寺蔵



密



国宝「錫杖頭」(部分)
唐時代・8世紀 香川・善通寺蔵

空海が唐からもたらした經典や絵画、法具類は、内容といい造形といい、それまでの日本仏教界には見られない斬新なものでした。特に真言密教は絵画をはじめとする造形を重視したため、空海請来の品々は根本となるものとして、以後の日本の真言密教美術の規範となります。本展では空海が請来、あるいは制作・伝来に深い関わりを持つ文化財を中心に、真言密教美術の源流をご覧ください。

真言密教美術の源流。

国宝「諸尊仏龕」
唐時代・8世紀 和歌山・金剛峯寺蔵



美

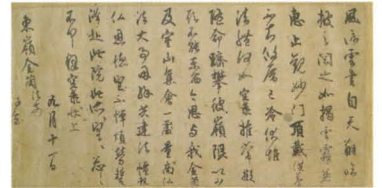
仏像曼荼羅を体感する。

感

京都・教王護国寺(東寺)講堂には、空海(くわい)の思想に基づいて大日如来を中心に五仏、五菩薩、五大明王など21体の仏像が安置されています。群像が規則的に安置されるその様子は、密教の宇宙観を示す曼荼羅(まんだら)をまさに立体で表したものです。展覧会ではそのうちの8体による仏像曼荼羅が出現します。会場では諸像の間に入って、仏像曼荼羅の空間を体感できます。東寺とはまた違う視点でお楽しみください。

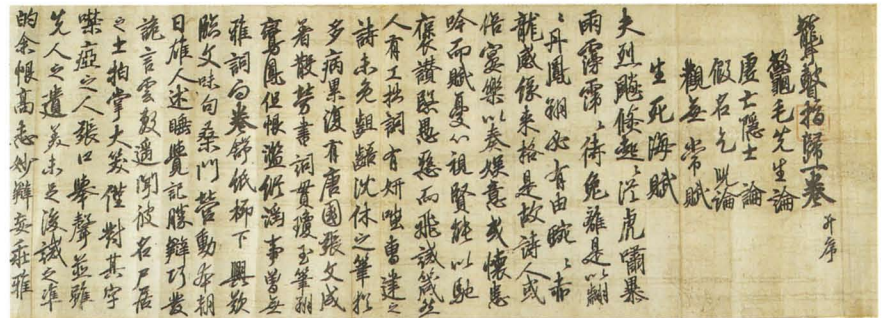


[上] 東寺講堂内の「立体曼荼羅」の写真です。本展の展示とは異なります。
Photo: (株)ロケットジャパン 新岡重智
[右] 本展の展示イメージ図
©デザインオフィス イオ



[右] 国宝「風信帖」(第一通) 空海筆 平安時代・9世紀 京都・東寺蔵
展示期間: 8月23日～9月25日

[下] 国宝「聾瞽指帰」(巻頭) 空海筆 平安時代・8～9世紀
和歌山・金剛峯寺蔵
展示期間: 上巻7月20日～8月21日、下巻8月23日～9月25日 ※写真は上巻



[上] 国宝「宝相華迦迦頻伽時絵冊子箱」
平安時代・10世紀 京都・仁和寺蔵
展示期間: 7月20日～8月21日
[下] 国宝「密教法具」
唐時代・9世紀 京都・東寺蔵



我が国における漢字の書体は、平安時代中ごろまでは中国の影響を受けた書風が主流でした。空海(くわい)の書風もその一つです。若いころから書に造詣の深かった空海は、唐に渡って密教(みくわう)を学び仏典(ぶつてん)を書写する過程から、当時最先端の唐の書法(ていしよほう)を会得(くわいとく)したとされます。草書(そうしよ)を得意としたその書は、帰国(きこく)後さらに独自の発展(はつぜん)を遂げ、自由奔放(じゆりゆうほうぱん)で豪快(ごうかい)とも評(ひょう)される独特(とくどく)の書風(しよふう)を確立(かくりつ)していきました。本展(ほんてん)では、全長(ぜんちやう)約12mの「聾瞽指帰(そうこしゆきき)」をはじめ、現存(げんじゆん)する空海(くわい)直筆(ちくぺき)の書(しよ)5件(5けん)をすべて巻頭(まきだう)から巻末(まきすえ)まで展示(てんし)します。空海(くわい)の書(しよ)に対する姿勢(しせい)や中国(ちゆうごく)の書風(しよふう)・文化(ぶんか)の吸収(きうしゆ)・独自の書風(しよふう)の確立(かくりつ)と展開(てんかい)といった流れ(ながれ)をお楽しみ(おたのしみ)ください。

書

弘法大師の書。